

## 令和5年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

◎ 「明日も行きたいと思う学校」をめざす。

◎ 「地域で豊かに生きていく力の育成」をめざす。

本校における豊かに生きていく力とは、1. 豊かなこころ 2. 楽しむ力 3. 体力 4. コミュニケーション力 とする。

## 2 中期的目標

1 安心安全な学校生活を送る体制をつくる。

(1) 教職員全員が人権意識を高め、児童生徒の人権を尊重する。

(2) 児童生徒の生命・健康を守る。

\*危機管理体制（感染症対策を含む）を充実させ、緊急時における児童生徒の安心安全を確保し、教育活動の継続を図る。

(3) 教育相談体制の整備を図る。

(4) 教職員の多様な働き方の支援など、働き方改革を進める。

2 障がいの多様化に応じた教育活動の展開ができるよう教職員の資質向上を図る。

\*すべての教職員が互いの同僚性を認め、資質を高めあう教育を実践する。

(1) 知的障がい支援学校として計画的で効果的な授業力向上の研修・研究に取り組む。

(2) 教職員一人一人が学校課題に応じた校内外の研修を積極的に受講し、特別支援教育や業務遂行に関する専門性を向上させる。

(3) ICT 機器の活用やタブレット端末を使用して、児童生徒が主体的に取り組める授業を実施する。

3 小学部中学部高等部の継続性のある系統的なキャリア教育を実践する。

\*学校教育自己診断 教職員アンケートにおいてR7年度まで肯定的意見80%以上の維持をめざす。(R2 80% R3 75% R4 83%)

(1) 小学部中学部高等部12年間をつなぐキャリア教育の実現を図る。

(2) 児童生徒が自己肯定感を高め、地域社会で豊かに生きていく力を育てる。

4 特別支援教育のセンター的機能を発揮し、開かれた学校づくりを推進する。

(1) 地域の学校園に在籍する障がいのある幼児児童生徒支援の充実を図る。

(2) 相互に尊重する気持ちを育むため交流及び共同学習を計画的に実施する。

(3) ホームページ等の活用・充実を図る。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 安心安全な学校生活を送る体制をつくる。	<p>(1) 教職員全員が人権意識を高め、児童生徒の人権を尊重する。</p> <p>(2) 児童生徒の生命・健康を守る。</p> <p>(3) 教育相談体制の整備をする。</p> <p>(4) 教職員の多様な働き方の支援など、働き方改革を進める。</p>	<p>(1) ・ハラスメント・体罰・不適切な指導の防止などの教職員研修を実施する。 ・令和4年改訂したセキュリティポリシー実施手順を遵守し、情報の管理を行う。</p> <p>(2) ・校内のヒヤリハット報告を職員朝礼等で行い、教職員で共有する。 ・交通ルールを守って生活できるよう、校内に設置している信号機等を活用し、交通安全指導を実施する。 ・大規模災害、緊急時を想定し保護者引き渡し訓練を実施する。 ・大規模災害時初期対応マニュアルを活用し、避難所設置までの対応を図る。 ・食物アレルギー事故防止を防止する。 ・食育学習を充実させる。</p> <p>(3) ・児童生徒向けの相談室の運営方法を検討する。</p> <p>(4) ・週1回(毎週水曜日をゆとりの日)、ノー会議デイを設定し、時間外労働の削減につなげる。 ・デジタルサイネージ(職員室の4台の大型ディスプレイ)を活用し、教員が自分のタイミングで必要な情報を迅速に得ることができるよう、発信する。 ・全教員がタブレット端末を活用し、業務改革・業務削減を図る。(プロジェクトチームを中心に、電気通信事業者と連携)</p>	<p>(1) ・年間3回実施するうち1回は少人数でのグループワーク形式で行う。 ・個人情報の漏洩や誤配付の件数を引き続き、ゼロにする。[1件]</p> <p>(2) ・リスク管理を高めるため、意識してヒヤリハットの報告件数を増やす。[14件] ・全校で年間3回、実施する。 ・年間1回、実施する。[0件] ・地域の方や区役所等と連携し、マニュアルに沿った避難所設置シミュレーションを行う。[0件] ・アレルギー事故防止のため、教職員全体研修を実施する。[0件] ・児童生徒が参加できる取り組みを計画する。 ・児童生徒が直接相談できる仕組み(担任を含めた複数の教員窓口)を構築する。</p> <p>(3) ・児童生徒が直接相談できる仕組み(担任を含めた複数の教員窓口)を構築する。</p> <p>(4) ・毎週水曜日に全体会議、全体研修を設定しないよう月中行事を調整する(月1回以内におさえる)。 ・必要な連絡事項等を発信し、新たな活用についてもアイデアを募り、実行する。 ・予定の共有化、会議等でのタブレット端末の活用(ペーパーレス)、クラウドドライブサービスの活用を行う。</p>	
2 障がいのある児童生徒の多様なニーズに応じた教育活動の展開ができるよう教職員の資質向上を図る。	<p>(1) 計画的で効果的な授業力向上の研修・研究に取り組む</p> <p>(2) 専門性向上のため外部研修等に参加する。</p> <p>(3) ICT機器の活用やタブレット端末を使用して、児童生徒が主体的に取り組める授業を実践する。</p>	<p>(1) ・他学部や他の教員の授業を参観し、研究協議を充実させる。 また、近隣小中学校との授業交流を段階的・計画的に実施するため、まず公開授業を実施する。</p> <p>(2) ・近知研などの外部研修に教員を派遣し、習得した情報や知識を校内に広く還元する。 ・教員が清掃研修を受け、校内での職業教育の指導に活かす。</p> <p>(3) ・教員がタブレット端末を活用できる環境を整備し、指導事例を共有する。(プロジェクトチームを中心に、電気通信事業者と連携)</p>	<p>(1) ・初任者研修、インターミディエイト研修、アドバンス研修、10年次研修にかかる研究授業を公開授業として設定し、必ず研究協議を行う。</p> <p>(2) ・外部の研修に3回以上教員を派遣し、その内容の伝達講習を実施する。 ・校内での研修を年1回実施する。</p> <p>(3) ・タブレット端末等を活用した授業を指導事例として校内イントラネット等に集約し、共有を図る。</p>	

## 府立思斉支援学校

<p>3 小学部・中学部・高等部の継続性のある体系的なキャリア教育を実践する。</p>	<p>(1) 小学部・中学部・高等部 12 年間をつなぐキャリア教育の実現をはかる。</p> <p>(2) 児童生徒が地域社会で豊かに生きていく力を育てる。</p>	<p>(1) 学びの連続性の構築に向けて、学部間の交流学习を実施する。</p> <p>・高等部の進路指導の講話を小学部・中学部でも行い指導に活かす。</p> <p>(2) 「自己肯定感」を高め、職業とつながっていくような、地域と連携した取り組みを行う。</p> <p>・豊かな情操を育むために、芸術鑑賞の場を設ける。</p>	<p>(1) 情報機器等を活用し、授業見学や交流学习を実施する。</p> <p>・小学部・中学部では、教員向けに年 1 回実施する。中学部・高等部では生徒向けに年に 1 回程度実施する。</p> <p>(2) 中学部及び高等部を中心に、地域や区役所と連携し、自転車のメンテナンス作業を授業の中に組み込む。</p> <p>・芸術鑑賞会を 1 回以上実施する。</p>	
<p>4 特別支援教育のセンター的機能を発揮し開かれた学校づくりを推進する。</p>	<p>(1) 地域支援の充実を図る。</p> <p>(2) 近隣校や居住地校との交流活動を実施する。</p> <p>(3) ホームページ等の活用・充実を図る。</p>	<p>(1) 研究部と支援室で連携し、夏季休業中に「公開講座」を開催する。</p> <p>・リーディングスタッフを中心に、支援室として地域支援に対応する。</p> <p>(2) 各学部ごとに学校間交流を実施する。</p> <p>・小学部・中学部は希望者に居住地校交流を実施する。</p> <p>(3) ホームページの内容の充実を図る。</p> <p>・メール(ミマモルメ)の積極的な活用を図る。</p>	<p>(1) 公開講座を 2 講座開催する。[2 講座]</p> <p>・相談実施校にアンケートを実施し肯定的意見 85% をめざす。(相談実施校に学校作成の独自アンケートを実施する。)[ケース相談 26 研修講師 5 検査 1 情報提供 5 ケース]</p> <p>(2) 小学部 1 校、中学部 1 校、高等部 2 校との学校間交流を 1 回以上実施する。[小(1 回)、中(1 回)、高(2 回)]</p> <p>・希望者に対して居住地交流をすべて実施する。[希望件数 10 件 実施件数 5 件]</p> <p>(3) 行事や各学部の様子など発信頻度をあげる。(学校行事、各学部行事等更新 50 回以上)</p> <p>・全児童生徒家庭の登録を促す。[90.5%]</p> <p>・「児童生徒の欠席連絡」、「教職員からの連絡」、「保護者への情報発信」で、活用を図る。</p>	